令和７年度　前期始業式校長講話

令和７年４月８日（火）

皆さんおはようございます。校長の　鴨志田　新一　です。
春休みも終わり、令和７年度がスタートしました。毎年同じことを言っていますが、前期始業式は、一年に例えると元日の朝、すなわち元旦になります。
ことわざに「一年の計は元旦にあり」があります。一年の計画は、元日の朝に立てるものだという意味です。言い換えれば、最初が肝心ということです。
皆さんは、今、一年のスタートを切りました。是非、今の決意や気持ちを忘れずに１年間を過ごしてください。

今日は、詩人で書家の相田みつをさんの言葉を紹介します。私は、教科が国語ですので、いつも校長講話では、詩やことわざなどを引用しますが、ご容赦願います。
相田さんの言葉は、簡潔ですが、人の心に響きます。その書は、独特で、人間味に溢れています。
皆さんもいくつかの言葉や詩に触れたり、書を見たりしたことがあるかもしれません。
有名な言葉に「にんげんだもの」があります。
２年前になりますが、栃木の足利学校を見学した時に、お昼に入ったお蕎麦屋さんで先代のおかみさんが、当時、全く無名だった、相田さんの書を初めて買った人物であると紹介されて驚いたことがあります。どんな人にも苦労した経験があり、その苦労が人生に活かされているのかなあと感じました。

今日は、「道」という短い詩を紹介します。

「歩くから道になる　歩かなければ草が生える」

皆さんは何を感じましたか。
個人的な話で申し訳ありませんが、私は趣味でジョギングをしています。
大会やレースにも定期的に参加し、これまで４０回以上、フルマラソンを走りました。走るというのは、前にしか進みません。そして、走り続けていると必ずゴールにたどり着きます。
そんなに速くなく、ゆっくりと走っているのですが、決して後ろは振り向きません。
なぜなら、私は誰かと競い合っているのではないからです。自分自身と競い合っているからです。

相田さんの詩に戻ります。
一人一人がどの道に進むかはわかりません。自分で決めて、行動に移さなければな

りません。
　マラソンと違って、ゴールがあるのか、道の先に何があるかわかりません。
　でも、勇気を持って、踏み出さなければ、道は草となり、周りは草だらけになり、歩むべき方向もわからなくなります。

　今、世界は混とんとしています。何が起こるか予想もできません。
　だからこそ、皆さんは顔を上げて、背筋を伸ばして、前を向いて歩きだしましょう。
　まず、歩きだすこと。行動すること。
　歩きだけば、何かが見えます。風景も変わります。何かが変わります。
　悩んだり、不安だったりしても歩きだすことが大事です。
　そして、一緒に歩く仲間がいます。友がいます。支えてくれる先生方もいます。手を取り合って前に進んでいきましょう。

　最後にいつもの「凡事徹底」について、当たり前のことを当たり前にする。
　人間としての、生きる上でのマナー、礼儀、服装、あいさつ、これらのことを自然に行うことで、何事にも耐えることができる人間、志が高く、品格のある人間になることができます。

　午後には入学式があり、８０名の新入生を迎えます。
　常盤高校は、全員が前を向いて、背筋を伸ばして、前に歩く集団です。
　先輩となる在校生　その姿勢を新入生に伝えてください。

　それでは、令和７年度も輝かしい１年になるように期待しています。
　私からは以上です。